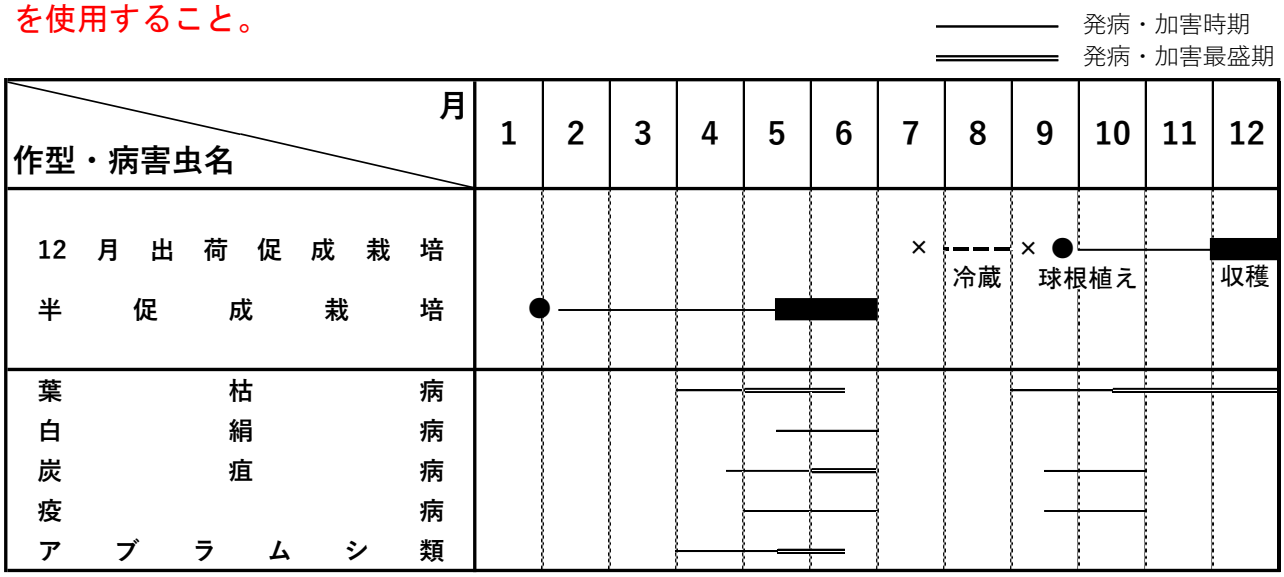
ゆり

農薬取締法上、「ゆり」は、観賞用等、食用以外の農産物を指す。食用の「ゆりね」を栽培する場合は、「野菜類」か「鱗茎類」か「鱗茎類(根物)」か「食用ゆり」に適用のある農薬を使用すること。



球根腐敗病

留意事項

1 土壌消毒を行うことによって、他の土壌伝染性病害も防ぐことができる。

2 ホーマイ水和剤を使用する場合、薬液の温度はなるべく10℃以下を避ける。

防除方法

1 健全な球根を使用する。

2 連作を避ける。

3 土壌消毒を行う。(ⅩⅢ土壌消毒　参照)

・バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤 劇 ＜－＞

【花き類・観葉植物　20～30kg／10a　は種又は植付前／1回】

4 植付け前または、貯蔵前に下記の薬剤を施用する。

・ホーマイ水和剤 ＜Ｍ３＞ ＜１＞

【200倍　30分間球根浸漬　植付前又は貯蔵前／1回】または

【球根重量の1.0%　球根粉衣　植付前又は貯蔵前／1回】

葉枯病

留意事項

1 ダコニール1000、ダコニールアルファに含まれる成分TPNの総使用回数は、6回以内なので注意する。

2 ダコニール1000は、花弁に漂白・退色などによる斑点を生じる場合があるので着色期以降の散布は避ける。薬液による汚れが生じるおそれがあるので、収穫間際

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

の散布は避ける。また、かぶれに注意する。

3 SDHI剤≪７≫は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 密植を避け風通しを良くする。

2 被害葉は、ほ場外に持ち出し処分する。

3 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。

・ダコニール1000 ＜Ｍ５＞【1000倍　発病前～発病初期／6回】

・ダコニールアルファ ＜Ｍ５＞【2000倍　発病前～発病初期／6回】

・フルピカフロアブル ＜９＞【2000～3000倍　発病初期／5回】

4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・トップジンM水和剤 ＜１＞【1500～2000倍　－／5回】

・アフェットフロアブル ≪７≫【2000倍　発病初期／3回】

白絹病

留意事項

1 菌核が生じる前に発病株を直ちにほ場外へ持ち出す。

防除方法

1 被害株は株元の土とともに ほ場外に持ち出し処分する。

2 未熟な有機物の施用は避ける。

3 土壌pHを6.5～7に酸度矯正する。

4 土壌消毒を行う。（ⅩⅢ土壌消毒　参照）

・バスアミド微粒剤、ガスタード微粒剤 劇 ＜－＞

【花き類・観葉植物　20～30kg／10a　は種又は植付前／1回】

5 予防的に下記の薬剤を散布する。

・リゾレックス水和剤 ＜１４＞

【花き類・観葉植物　500～1000倍　株元かん注（3L／㎡）　－／5回】

炭疽病（たんそびょう）

防除方法

1 健全な球根を使用する。

2 チッソ質肥料の過用を避ける。

3 被害株は、ほ場外に持ち出し処分する。

4 排水を良好にし、土の跳ね上がり防止のために、わらまたはポリフィルムでマルチングを行う。

5 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。

・チオノックフロアブル ＜Ｍ３＞

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【花き類・観葉植物(除りんどう)　500倍　発病初期／6回】

疫病

防除方法

1 健全な球根を使用する。
2 連作を避ける。
3 被害株はほ場外に持ち出し処分する。
4 密植を避け風通しを良くする。
5 土の跳ね上がり防止のためにマルチングを行う。
6 太陽熱利用による土壌消毒を行う。(ⅩⅢ土壌消毒　参照)

アブラムシ類

留意事項

1 ウイルス病を媒介する。
2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 ほ場内外の雑草を除去する。
2 寒冷しゃやネットによって有翅虫の飛来を防ぐ。
3 発生を認めたら下記の薬剤を施用する。

・ダントツ粒剤　＜４Ａ＞
【花き類・観葉植物(除きく)　6kg／10aまたは1～2g／株　生育期株元散布
発生初期／4回】

4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤　＜４Ａ＞
【花き類・観葉植物(除きく)　2000～3000倍　発生初期／5回】
・トレボン乳剤　＜３Ａ＞【2000倍　－／6回】
・アディオン乳剤　＜３Ａ＞
【花き類・観葉植物(除はぼたん)　2000～4000倍　発生初期／6回】
・コルト顆粒水和剤　＜９Ｂ＞
【花き類・観葉植物(除チューリップ、ばら)　4000倍　発生初期／4回】
・ジェイエース水溶剤　＜１Ｂ＞
【花き類･観葉植物(除ばら、きく)　1000倍　発生初期／5回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ネダニ類

留意事項

1 ネダニ類の寄生が疑われる球根(萎縮、腐敗等)は、植付けしない。また、植付け後に気づいた場合(不発芽、生育遅延、生長点が紫色を帯びる等)は掘り取って処分する。

2 前年に多発したほ場、前作がねぎ、たまねぎ、チューリップなどのほ場では植付けを避ける。

3 球根温湯浸漬処理は高温になると球根に障害が出るので注意する(50℃以上)。

防除方法

1 連作を避ける。

2 pHが5～6の酸性土壌では発生しやすいため、土壌pHを矯正する。

3 健全な球根を使用する。

4 収穫残さは、ほ場外へ持ち出し処分する。

5 球根温湯浸漬処理(45℃ 60分)を行う。

6 植付前に下記の薬剤を施用する。

・グレーシア乳剤 ＜３０＞【2000～3000倍　30分間種球浸漬　植付前／1回】

7 定植前に下記の薬剤を土壌施用する。

・ネマキック粒剤 ＜１Ｂ＞
【花き類・観葉植物(除きく)　20kg／10a　全面土壌混和
植付前又は定植前／1回】

8 定植時に下記の薬剤を施用する。

・ジメトエート粒剤 劇 ＜１Ｂ＞
【ネダニ　4.5～6.0kg／a　植穴土壌混和　定植時／3回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。